

# 平成 14 年 1 月～平成 22 年 3 月に悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断を受けられた方へ

検査のためにご提供いただいたリンパ節組織の遺伝子を使用し、「メラノーマ患者のセンチネルリンパ節および末梢血におけるがん幹細胞の同定）」の臨床研究を開始いたします。

研究機関名 岡山大学病院

研究責任者 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科(皮膚科)・非常勤研究員・高田 実

研究分担者 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科・皮膚科学分野・皮膚科教授 岩月啓氏,  
岡山大学病院皮膚科・講師 山崎 修,  
岡山大学病院皮膚科・助教 大塚正樹,  
岡山大学病院皮膚科・医員 鈴木規弘

## 1. 研究の背景・目的

悪性黒色腫（メラノーマ）の病気の広がりを調べるために、原発腫瘍からがん細胞が最初に流れ込むリンパ節を切除し、顕微鏡で詳しく調べる検査（センチネルリンパ節生検）が現在広く行われています。この検査により、原発腫瘍を切除した後の再発・転移の可能性をある程度予測することができますが、その精度はまだ充分ではありません。この研究はセンチネルリンパ節の標本を顕微鏡で調べるだけでなく、そのリンパ節に流れ込んだメラノーマのがん細胞を遺伝子のレベルで検出することにより、手術後の再発・転移の可能性をより正確に予測することを目的としたものです。

## 2. 研究の内容・方法

### 1) 研究の対象者

平成 21 年度までに岡山大学病院に悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断をうけられた方

### 2) 研究の方法

提供していただいたセンチネルリンパ節に、メラノーマのがん細胞のうちで再発や転移の鍵を握っていると考えられる特殊な細胞（これをがん幹細胞と言います）が

含まれているかどうかを調べます。その方法はセンチネルリンパ節生検の検査で摘出されたリンパ節から遺伝子を取り出し、PCR と呼ばれる増幅法を用いてメラノーマのがん幹細胞が持っていると考えられる CD271, JARID1B, ABCB5, CD133, ネスチン, ノダルという 6 つの遺伝子が働いているかどうかを調べます。その結果と臨床的な経過（再発や転移があったかどうかなど）を照合し、がん幹細胞の特定の遺伝子がリンパ節や血液で働いていると再発しやすいかどうかを検討します。この研究により、将来的にメラノーマの再発や転移がどの程度の確率で起こるかをかなり正確に予測できるようになるかもしれません。なお、調べる遺伝子の数や種類は今後追加される可能性があります。

### 3) 研究実施期間

平成 22 年 9 月から平成 25 年 3 月 31 日

### 4) プライバシーおよび個人情報の保護

試料とデータの管理はコード番号等で行い、あなたの氏名など個人情報が外部に漏れることがないように十分留意します。

この研究にご質問等がございましたら、下記までお問い合わせ下さい。ご自身の情報が研究に使用されることについて、ご了承いただけない場合はお申し出下さい。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様にご不利益が生じることはありません。

### 〈問い合わせ等の連絡先〉

岡山大学病院皮膚科 医師 山崎 修

電話：086-235-7282 E-mail：info@okayama-hihuka.jp

住所：〒700-8558 岡山市北区鹿田町二丁目 5 番 1 号